

## ☆☆文庫あれこれ☆☆

◆バザーに来てくださったたくさんの方々、そして、バザーを計画運営して下さった沙羅の樹文庫友の会メンバーの方々ありがとうございました。皆さんが、話し合い、バザーを実行するのを楽しみ拝見しました。◆初日ははじめは雨でしたが、伊豆・大室高原のみなさんは心がけがよいようで、昼からは青空が見えました。◆南大室窯の近藤さまはじめ、大勢の方がすばらしい品々をお持ちくださいました。やはり衣類は難しいわね、との意見と反省もありますが。◆みなさんからのリクエスト本 Get に使わせていただきますね。(まだいただいたわけでなく、明日を残しての皮算用)◆花見の頃のおはなし会の日にちで失敗したのに、どうも今回の若葉の頃のおはなし会も学校行事と重なったようで、おはなし聴きにきてくれる人いるかしら?と少し心配です。八幡野の幼稚園、保育園に催し物パンフを配ってくださった協力メンバーさん、また、散歩の途中で声をかけたり、電話でお誘いしてくれた運営スタッフさん、感謝です。沙羅の樹文庫は幸せ者です。◆おはなし会と言えば、昨年秋の夜長のおはなし会を聴いて、伊豆に引っ越してきて本当によかったわ、と言ってくださった方がいます。そんなお声を聞くと、そんな出会いをつくれた喜びで嬉しくなります。◆さて、早いもので、あと2ヶ月で沙羅の樹文庫は1歳。文庫のシンボル、姫娑羅の白い小さな花のつぼみも膨らんでいます。◆おかげさまで、会員130名を越えました。7月には、皆さんが新たな年にも文庫を引き続き活用して下さることを願っております。恐縮ですが、7月には、継続の手続きと年会費大人300円、子ども100円をお願いします。◆蔵書も3700冊を越えました。当初2500冊でオープンしたのでから1年間で1000冊以上ふえたわけです。購入もしましたが、会員の皆さんからの寄贈、友人からの大量寄贈が大きく冊数を伸ばしました。◆相変わらず、選書にはすこしこだわりがあり、何でも受け入れることはできないのですが、これからもよろしくお

願います。(西村)



少し気が早いですが。。。、

### これからの催し物予定

文庫開館一周年記念・子どものためのおはなし会

7月15日(日)午前 於 沙羅の樹文庫

海の日のおはなし会:

7月15日(日)夕方 於 伊豆高原駅・大楠の下

夏休み文庫毎日開館期間 8月中旬(未定)

文庫の本で宿題や調べものやってみよう!

★もっとくわしいことは、6月のお便りで

お知らせします。★

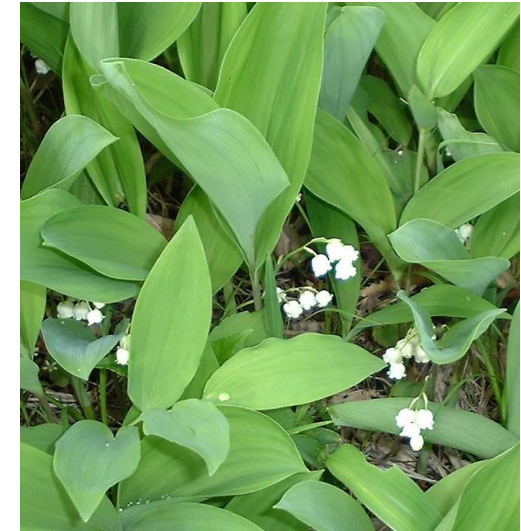
### ☆☆今後の開館スケジュール☆☆

- ◆6月は、第3土日(16, 17)開館。
- ◆7月は、文庫一周年です。上記をご参照ください。文庫の開館は、14日(第2土曜)と15日(第3日曜)、通常の時間です。
- ◆8月は、通常の第3土日(18, 19)のほかにも開館する予定です。
- ◆文庫の時間は土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時
- ◆毎月開館日の日曜には、子どものための小さなおはなし会があります。午前10:00~10:30です。
- ◆文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です(従って第3土曜日でなく第2土曜日ということもあります)。

# 沙羅の樹文庫だより

## No.9

(2007年5月号)



5月の伊豆高原、大室高原界隈は  
アートフェスティバルで

皆さん、お楽しみ月間をお過ごしでしょうか。

沙羅の樹文庫では、有志の方々が  
図書購入費にと

沙羅の樹バザールを開いてくださっています。

そして、おはなし会!

東京から山の木・おはなしのたねの皆さんが、

男性の語りあり、子どもの語りあり、  
赤ちゃん向けのおはなしも盛りたくさん。

どうぞ、心ゆくまでお楽しみください!

## 紹介・子どもの本 大人の本

### ★会員から会員へおすすめの1冊★

(文庫の棚の本を紹介していただいております)

#### 『四度目の氷河期』 (萩原浩著 新潮社 2006)

大ヒットした「明日の記憶」の作者が初めて書いた青春小説です。

シングルマザーと暮らすワタルは、父親は死んだと聞かされていました。しかし、まわりの子供たちとの違いに悩んでいたワタルはふとしたことから父親をクロマニヨン人と思い込みます。それを心の支えにクロマニヨン人として生きるために石器作りや槍投げに励み、並はずれた運動能力をいかして陸上競技で活躍するようになります。

母親とのかかわり、転校生サチとの出会いや友情、愛。さまざまのエピソードにいるどられながら物語は進んでいきます。

冒頭のクロマニヨン人のミイラに向かって「父さん」と呼びかけるシーンからはどう転回するのか取り付きにくい気もしますが、そこは萩原浩らしいユーモアと温かみのある文章で最後まで一気に読ませてしまいます。

今回の直木賞最終選考にノミネートされましたが、該当作なしで、残念ながら選ばれませんでした。

(谷崎 亮子)

#### 寄贈いただきました。

会員の藤沢貴代子さん、青木和子さんはじめ数の方から、また、先月に続いて東京・広瀬恒子さんから児童書 200 冊、児童書研究書 10 冊いただきました。

ありがとうございました。

とても多いのです。大人も子どもの本の世界へ!

『ベラスケスの十字の謎』(エリアセル・カンシーノ作 宇野和美訳 徳間書店 2006)

成長がとまってしまって、大きくなれなかったニコラスは、父に疎まれ、故郷イタリアからスペインの王宮へ売られてゆきます。みなさんは、ベラスケスの描いた「侍女たち」を観たことがありますか? この絵のなかにニコラス少年が描かれています。この実在の名画は今も謎を抱えています。これはその謎をめぐる不思議なお話です。

やはり、有名なモナリザの絵をめぐる書かれたお話『ジョコンダ夫人の肖像』(カニグズバーグ作 岩波書店)と読み比べるのも面白いです。世紀を越えた名画の世界を深めてくれます。

『子どもに語るロシアの昔話』(伊東一郎訳・再話 茨木啓子再話 こぐま社 2007)

この子どもに語る昔話シリーズもずいぶんとふえました。日本、グリム、アイルランド、アジア、イタリア、トルコ、北欧、モンゴル・・・と。全部文庫にあります。

さて、今回のロシアのお話は、他にたくさんあるロシア民話にないお話が多く、とても簡潔で語りやすいと思いました。どうぞ、お子さんに読んで(語るのが無理なら)あげてください。また、いろいろな国のおはなしを讀んでいると、少しずつその国のありさま、国民性などが透けてみえてきて、現代にも繋がってるなあと感じます。

『草原の少女 プージェ』(関野吉晴著 小峰書店 2006)

モンゴルの草原で、探検家・関野吉晴さんは、ひとりの少女に出会った。モンゴルと言えば、今では私たちの中で朝青龍をはじめとした相撲力士を思い出す人が多いかもしれません。また、最近、蒙古(モンゴル)から立って、世界を広げていったジンギスカンの生誕?800年とやらで映画でも、小説(日経新聞連載)でも話題になっています。

今夏、ただただモンゴルの広い草原が見たい、と言う夫さんとモンゴルに出かける予定です。で、寄贈していただいた本の中でこれを見つけて読んだのです。

ストリートチルドレンの話や、まだまだ学校が足りず、日本で働いて懸命に故国に学校をと頑張っている歌手の

人の話を聞いたこともあります。

でも、この話は、強烈でした。関野さんの写真に写るこの少女に起こった出来事を、皆さんも見てください。「グレートジャーニー」の関野さんはたんとと伝えてくれます。何を? それはあなたしか感じられない!

(颯・花・空)

#### 新入庫案内

##### 大人の本

新刊: 家日和(奥田英朗著 集英社 2007) / 生きるかたち(高橋健著 ポプラ社 2007) / うさぎおしーフランス人(村上春樹著 安西水丸絵 文芸春秋 2007)

新入庫: マグヌス(シルヴィー・ジェルマン〔著〕 辻由美訳 みすず書房 2006) / ソーネチカ(リュドミラ・ウリツカヤ著 沼野恭子訳 新潮社 2002) 異界飛行(村田喜代子著 講談社 1998)

##### YA(ヤングアダルト)の本

小生物語(乙一著 幻冬舎 2007) / 20年後(オーヘンリー著 千葉茂樹訳 理論社 2007)

##### 子どもの本

とぶ船 上下・たのしい川べ(岩波少年文庫・石井桃子 100 歳記念再刊) / 魔使いの弟子(ジョセフ・ディレイニー作 金原瑞人・田中亜希子訳 東京創元社 2007) / 虎の弟子(ローレンス・イエップ著 金原瑞人・西田登訳 あすなる書房 2006) / おはなしタイム(アイリーン・コルウェル編 よつたゆきえ訳 新読書社 2002) / 長新太のおでかけ絵本(クーくん ツーくんとタコとイカ クーくん ツーくんとヘリコプター 長新太さく ぶんけい 2007) / くじらのうた(ディヴィッド・ルーカス作 なかがわひろ訳 偕成社 2007)

ルイザ(ノーマ・ジョンストン著 谷口由美子訳 東洋書林 2007)とルイーザ・メイとソローさんのフルート(ダンラップ&ロルビエック作 メアリー・アゼリアン絵 長田弘訳 BL出版 2006)

★そのほかたくさんたくさん入庫してます。赤ちゃん絵本もいっぱい! どうぞ本棚からお好きな本を選びだしてください。